

❖ 第1章 調査の概要 ❖

第1章 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、平成32年度からの「四街道市こどもプラン～第2期子ども・子育て支援事業計画～」策定に向けて、市民の教育・保育・子育て支援に関する現在の利用状況や今後の利用希望を把握し、市が確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出することを目的として実施しました。

2 調査の方法

- (1) 調査地域：四街道市全域
- (2) 調査対象：【就学前児童調査】市内在住の小学校就学前の子どもの保護者 1,000 人
【小学生調査】市内在住の小学生の保護者 1,000 人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配付・郵送回収
- (5) 調査期間：平成30年11月9日～11月27日

3 回収結果

	就学前児童調査	小学生調査
配布数	1,000	1,000
回収数	650	666
回収率	65.0%	66.6%

4 設問項目

(1) 就学前児童調査

調査項目	
1. 子どもと家庭の状況	
問1	居住地区
問2	子どもの生年月日
問3	子どもの人数
問3-1	多胎児の有無
問3-2	末子の年齢
問4	回答者
問5	回答者の配偶関係

調査項目	
問 6	家族の同居・近居の状況
問 7	子育てを主に行っている人
問 8	日常的に子育てに関わっている人
問 9	日頃のサポートの状況
問 9-1	祖父母等からのサポートの状況
問 9-2	友人・知人からのサポートの状況
問 10	子育てする中で悩んだり不安に感じたりすること
問 11	子育てをする上での相談先
2. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	
問 12	利用の有無
問 12-1	利用している事業、施設所在地、利用状況、希望時間数
問 12-2	利用している理由
問 12-3	利用している事業の満足度
問 12-4	利用中の事業所を選択した理由
問 12-5	利用していない理由
問 13	希望する教育・保育事業、施設所在地
問 13-1	利用を強く希望する教育・保育事業
問 14	幼児教育・保育の無償化後の利用希望
3. 地域の子育て支援事業の利用状況	
問 15	利用状況
問 16	利用希望
問 17	子育て支援サービス・事業の認知度、利用状況、利用意向
4. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用状況	
問 18	利用希望
問 19	幼稚園利用者の長期休暇期間中の利用意向
5. 子どもの病気の際の対応	
問 20	病気・ケガにより事業が利用できなかったことの有無
問 20-1	対処方法
問 20-2	病児・病後児保育施設等の利用意向
問 20-3	病児・病後児保育施設等を利用したいとは思わない理由
6. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用	
問 21	一時的に預けたことの有無
問 21-1	一時的な預かりを利用していない理由
問 22	一時的な預かりの利用希望
問 22-1	一時的な預かりで希望する事業形態
問 23	宿泊を伴う一時的な預かりの有無
問 23-1	祖父母等の親族・知人にみてもらう場合の困難度

調査項目	
7. 小学校就学後の放課後の過ごし方	
問 24	放課後に過ごさせたい場所(低学年)
問 25	放課後に過ごさせたい場所(高学年)
問 26	土曜日・日曜日、長期休暇期間中のこどもルームの利用希望
8. 保護者の就労状況	
問 27	父親・母親の就労状況
問 27-1	1週あたりの就労日数、1日あたりの勤務時間
問 27-2	家を出る時刻、帰宅する時刻
問 27-3	パート・アルバイト等で就労している人のフルタイムへの転換希望
問 27-4	就労していない、就労したことがない人の今後の就労希望
9. 職場の両立支援制度等	
問 28	育児休業の取得状況・取得していない理由
問 28-1	育児休業取得後の状況
問 28-2	職場に復帰した時期
問 28-3	職場に復帰したときの子どもの年齢、希望と異なる理由
問 28-4	1歳になるまでの育児休業の取得意向
問 28-5	3歳まで休暇を取得できる場合の意向
問 28-6	短時間勤務制度の利用状況
問 28-7	短時間勤務制度を利用しなかった(できなかった)理由
問 29	育児休業給付等の認知度
10. 子育てに関する市への意見等	
問 30	住まいの地域における子育て支援や環境の満足度
問 31	充実を図ってほしい市のサービス

(2) 小学生調査

調査項目	
1. 子どもと家庭の状況	
問 1	居住地区
問 2	子どもの学年
問 3	子どもの人数
問 3-1	多胎児の有無
問 3-2	末子の年齢
問 4	回答者
問 5	回答者の配偶関係
問 6	家族の同居・近居の状況
問 7	子育てを主に行っている人
問 8	日常的に子育てに関わっている人

調査項目	
問 9	日頃のサポートの状況
問 9-1	祖父母等からのサポートの状況
問 9-2	友人・知人からのサポートの状況
問 10	子育てする中で悩んだり不安に感じたりすること
問 11	子育てをする上での相談先
問 12	子どもの朝食の状況
問 12-1	朝食をとらせていない理由
問 13	子どもの夕食の状況
問 14	子どもの虫歯の状況
2. 放課後の過ごし方	
問 15	放課後に過ごさせたい場所(低学年)
問 16	放課後に過ごさせたい場所(高学年)
問 17	土曜日・日曜日、長期休暇期間中のこどもルームの利用希望
問 18	こどもルームの利用を希望しない理由
3. 子どもの病気の際の対応	
問 19	病気・ケガにより学校やこどもルーム(学童保育所)を休んだことの有無
問 19-1	対処方法
問 19-2	病児・病後児保育施設等の利用意向
問 19-3	病児・病後児保育施設等を利用したいとは思わない理由
4. 保護者の就労状況	
問 20	父親・母親の就労状況
問 20-1	1週あたりの就労日数、1日あたりの勤務時間
問 20-2	家を出る時刻、帰宅する時刻
問 20-3	パート・アルバイト等で就労している人のフルタイムへの転換希望
問 20-4	就労していない、就労したことがない人の今後の就労希望
5. 家庭の経済状況等	
問 21	家庭の主観的経済状況
問 21-1	経済的理由から支払いができなかった経験
問 22	特に必要としている公的な支援
問 23	子ども食堂の認知
問 24	子ども食堂の利用意向
問 25	無料塾の認知
問 26	無料塾の利用意向
6. 子育てに関する市への意見等	
問 27	住まいの地域における子育て支援や環境の満足度
問 28	充実を図ってほしい市のサービス

5 調査結果の見方

- ・調査結果の数値は、原則として回答率（％）で表記しています。
- ・表では、原則として上段は実数、下段は割合（％）（小数第一位まで）として表記してあります。表中に「－」と表示してあるのは、回答者がいなかった場合です。
- ・回答率（％）は、その設問の回答者数を基数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100.0%を超えることがあります。
- ・回答率（％）は、小数第二位を四捨五入により端数処理しています。そのため、属性ごとの回答比率の合計が、合計欄の数値と一致しないことがあります。
- ・アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、図・表の中では要約して短く表現している場合があります。
- ・各設問において、性別や年代など基本属性に「無回答」があるため、全体の数値と各項目の数値の合計が一致しない場合があります。

6 前回調査との比較について

この報告書では、本文中で以下の調査結果との比較を行っています。なお、今回の調査と以下の調査では設問文や選択肢の一部が異なっている場合があることから、調査結果の比較に当たっては留意が必要です。

「四街道市子育て支援に関するアンケート調査」【平成25年度（前回）調査】	
対 象	【就学前児童調査】市内在住の小学校就学前の子どもの保護者 1,000 人 【小学生調査】市内在住の小学生の保護者 1,000 人
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査期間	平成25年11月29日～12月13日
回収状況	【就学前児童調査】63.5% 【小学生調査】59.1%

7 標本誤差

今回の無作為抽出法による場合、調査結果の数値（％）をそのまま全調査対象者の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じます。

統計学的には、以下の数式によって標本誤差率を計算して、全調査対象者の回答を推測します。

〈標本誤差算出式〉

$$\text{標本誤差率} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数

n = 回収数

p = 回答の比率

N = 母集団数（平成 30 年 11 月 1 日時点の住民基本台帳人口。就学前児童 4,840 人、小学生 5,205 人）

n = 回収数（就学前児童 650 人、小学生 666 人）

p = 回答の比率

この調査の標本誤差は、下表のとおりです。

		回答の比率 (p)				
		10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
標 本 誤 差 率	就学前児童	±2.2%	±2.9%	±3.3%	±3.6%	±3.6%
	小学生	±2.2%	±2.9%	±3.3%	±3.5%	±3.6%

※表の見方の例

就学前児童調査問 30「お住まいの地域における子育て環境や支援への満足度は、いかがですか」の設問に、「1（満足度が低い）」と回答した人が全体（n=650）の 10%であったとします。

この場合、標本誤差は±2.2%であるため、四街道市の就学前児童の保護者で「満足度が低い」と考えている人の割合が 7.8%～12.2%の間にあることが、95%の信頼度でいえることとなります。